

2025年12月

1日だけのヒューマンドキュメンタリー映画祭2025

「見える? 聴こえる?」
一緒に楽しむ上映会です

今年の映画祭は、3作品それぞれのバリアフリー上映です。

多様性を、本来の意味で認め合う社会へ、
映画を通して、一歩踏み出す体験を共にできたら…と考えました。

2025年11月15日(土)大阪市中心公会堂大会議室で開催された映画祭の様子、
アンケートに寄せられたメッセージなどご報告させていただきます。



【主催】ヒューマンDFプロジェクト、いせフィルム、NPOココペリ121

ヒューマンDFプロジェクト

大阪事務局／〒545-0043 大阪市阿倍野区松虫通3-3-8

TEL : 080-8710-3339 FAX : 072-840-0931

東京事務局／〒116-0013 東京都荒川区西日暮里3-6-10 佐々木ビル3F

TEL : 090-3503-5686

E:mail : info@hdff.jp http://hdff.jp/ x : hdff_abeno facebook : hdff.jp



1日だけのヒューマンドキュメンタリー映画祭2025にお越しいただいたお客様の声の一部です。(その1)

【日芸芸術】

●
ドラマでありながらドキュメンタリーでもあって見応えがあって面白かったです。

●
ドキュメンタリーのストーリーがどうつながるのに興味がありましたが、面白かったです。他の人にも勧めたい作品です。

●
ゆったりとリラックスして見れた。ありのままで以前なら何か意味を見い出そうとして疲れていたかも。あえて意味なんか見い出そうとせず頭をやわらかくして見ればたのしい。伊勢フィルムが続きそうなので安心した。

●
様々な人の様々なアートに、見ているこちらにも楽しい気持ちになった。

●
芸の細かさに感動!!すごいと思いました。

●
幸せは自分の中にある、と認識しました。

●
葉っぱで動物をつくるのはすごかった。やってみたい。

●
とても興味深い作品でした。ついていけないところ(芸術活動さまざま)も多く、そんな自分に気付かされた作品でした。

【もうろうをいきる】

●
バリアフリーへの取り組みは素晴らしいと思いました。

●
この映画を観ることができてよかったです。字幕がない方がいいという意見があることに驚きました。(字幕は有難いだけだと思っていましたので)バリアフリーという言葉への理解がまだ世間に知れ渡っていないということにも残念に思いました。「社会を変えるということはこういうことなのかな」という言葉に共感しました。

●
手話通訳を目指すものです。ずっと気になっていた「もうろうをいきる」を上映すると知り観に来ました。この世の中には本当に多様な人たちが生きていること、「もうろう」と一言で言ってもその中にも弱視や難聴など多岐にわたる障がい(の程度、種類)があることを実感し、すべての人たちが取り残されることなく社会とつながり生きていくためにはどうすればいいのだろうととても考えさせられました。通訳できるくらいの手話のスキルを身に付けられれば、もうろうの支援者になりたいと思います。もっと福祉の制度も充実してほしいですね。ありがとうございました。

●
難しかったです。場面をつなげてみるのが、場面展開していくのについていけず。

●
バリアフリー映画の作品の作り手の気持ちをはじめて知りました。私は障がいの方に携わる仕事をしていますが、もうろう者の方の介助に携わる仕事はしていませんが、いろいろな視点でのバリアフリーを考える考えさせられる時間そしてきっかけになったと思います。バリアフリーといってもハード面だけでなく心がかわせれる「心のバリアフリー」が全国に広まれば良いと思いますし、バリアフリー、多様性受容、コミュニケーションの大切さ、一人一人の気持ちが思いが社会を動かすきっかけになり、数年後には当たり前になる事を願います。

●
手話学習者です。触手話の経験も少しだけあるので、福島先生の映像も見れて良かったです。終演後のトークもとても勉強になりましたし、手話通訳のお二人の手話も素晴らしかったです。ありがとうございました。

●
映画の内容を理解するには、たくさんの登場者がいて、つながりを理解しきれないまま次の場面になるので、自分自身の集中力の乏しさを感じました。盲ろう者の方の実情を知る機会になり、どうかかわっていくのか考えました。



1日だけのヒューマンドキュメンタリー映画祭2025にお越しいただいた お客様の声の一部です。(その2)

【もうろうをいきる】

慣れない初めての音声で少し疲れた。でも慣れてくると今後は必要と思う。また、大阪でも続けてほしい。ぜひ業界も変えてほしい。今日はありがとうございました。

面白かったです。もうろうの方が近くにおられないのですが、皆さんの生活が豊かで驚きました。興味深く拝見しました。

力強く生きてらっしゃいました。自分がこのような立場に立たされたらすぐに弱音を吐くだろうと思いました。これからは負けないで常に前向きで頑張ろうと思いました。

困難な状況で日常生活を生きる人々のやり取りに心が温かくなった。

盲ろう者とのつながりはありますが、家の中での生活、地方での生活、とても貴重な映像でした。

「もうろうをいきる」の二人の話はおもしろかった。どのように映画をみるか、自分が気に入った見方があっていい。また「もうろう」の人が手を触っての手話があるというのが初めて知った。生きて楽しむためのあり方(「映画」をみる)いいですね。

完全にもうろうの人は、この映画を楽しむことができないというジレンマを感じました。でも、彼、彼女を支える人々も含め、生きていることが尊いと思える作品でした。伊勢監督と山上さんのトーク、とても興味深いものでした。私も少しバリアフリー上映に関わった事があるので。

【妻の病】

伊勢さんの話もとてもよかったです。映画も素晴らしかった。感動しました。

暮らすとは… 働くとは… 生きるとは… 人とは… それでも生きていく ということ大切です。

素晴らしかったですの一言です。ありがとうございました。

いい映画でした。明るく笑顔が多く、心が軽くなりました。

レビー小体型認知症、あまり聞いたことがなかったけれど大変な病気ですね。いい映画でした。ラ・クンパルシータの音楽が、彼女の唯一の元気にしてくれる音楽、曲のような気がしました。好きな曲が、ずーっと心に残るんですね。いい映画でした。良かったです。

互いに思い合っている病によってすれ違う夫婦が少し切なかった。

弥生さんと浩市さん、二人の互いへの愛情がにじむやりとり。レビー小体型認知症の複雑さ、弥生さんに見えている世界は一体どんなものなのだろう。弥生さん、浩市さん、お互いにメ分かなささを相手に感じながら、共に生きようとする姿勢、とても胸に刺さりました。

さすがの完成度です。タイトルの出るところが大好きです。素晴らしいご夫婦ですね。石本先生、偉い、カッコイイ!!

こんな日常をよく撮影したなーと思います。それがドキュメンタリーなんだろうけど。厳しい現実でも常に笑いがあるのがすごいと思う。弥生さんの心の中が何かを知って介護すること。とても大切なことばでした。

妻の病よかったです。ラ・クンパルシータもピッタリの音楽でした。いい映画でした。

なんだか胸が痛い。全く知らない認知症について、介護者の苦悩とよろこび?をこれでもかと突き付けられた。



1日だけのヒューマンドキュメンタリー映画祭2025にお越しいただいた お客様の声の一部です。(その3)

【その他】

2回目の映画祭ですが、今回もリアルにダイレクトに真実が伝わり、知見をまた広げることが出来ました。

阿倍野ヒューマンドキュメンタリーに何度か伺いました。三作とも力作でとても良かったと思います。来年も楽しみにしています。

今年も参加できました。「もうろうをいきる」大切な作品でした。バリアフリー、ボーダーレス、今私も何かしたいと思っています。伊勢監督、また会いに行きます。

会場に段差がないので一番前に座っている人の頭で画面の下にある字幕が全く見えなかった。字幕はできたら横か上にある方が見る(読む)ことが出来ると思います。

バリアフリーの映画は初めてでした。字幕があれば言葉の内容がはっきりして理解しやすく感じました。こういう上映がもっと増えればいいと思います。

字幕は年齢的に高齢者はあった方が良いと思います。また方言語は解りにくいのも方言語と字幕両方あったほうが分かりやすいと思います。

少し説明が多いと思うくらいでほぼ違和感なしで映像を楽しむことができました。字幕についても、例えばアニメなど鬼滅の刃なども字幕があった方が内容が分かりやすい場合もあるので活用しています。劇場なら十三の第七劇場などでやってくれるとうれしいです。

バリアフリーをスタンダードにする努力についてとても感銘をうけた。と同時に、作り手となる人々に「これからはマストだぜ」と意識づけも大切とほんのり思いました。違う人といっしょに見ることの大切さ、排外主義に対する姿勢について全く同感です。ソフトでなくハードのことだと、行政側の人が認識しているお話は残念すぎますね。

トークでのバリアフリー字幕と監督との関係や、バリアフリー映画についてお話が聞けたのが初めてで興味深かったです。

バリアフリー映画ということで、配慮も素晴らしかったのですが、前説や司会の方が話す時に手話通訳がなかったので、その辺りは少し残念に思いました。盲ろうの方の知り合いがいるので、ある程度のことは知っているつもりでしたが、みんな様々な工夫をされていることや、世の中の厳しさがよくわかり良かったです。もっと世間に広め、理解を進めていく必要があると感じました。

福祉に関わる仕事をしています。一人一人幸せの形がちがう。見えている世界も必ずしも私と同じではないということを改めて思わされました。とても楽しい1日でした。

私はろう者です。初めて映画を見て誠に感動しました。手話通訳者2名ありがとうございます。「もうろうをいきる」を見てほんまに不安です。私の同級生がもうろう者になってしまつてとじこもっている。だから私も嫌になってしまう。どうしたらいいか悩んでいる。

大阪弁護士会で企画を考えると、「バリアフリー映画」(日本字幕付き)にしようという意見が出て、この映画祭で体験できました。弁護士会でも今後の企画の参考にさせていただきます。

私は耳が不自由です。ほくほく作業で働いています。10年前生活介護の仕事をしたことがあります。障がい者の映画を見たいと思って参加しました。いろいろと勉強になっています。ありがとうございます。

対談のバリアフリー上映について興味深かった。(知らなかった世界)UDCastを借りて「妻の病」を見ました。途中目をつぶってみましたが、よくわかるのです。すごい。最後のエンドロールもわかりますものね。